

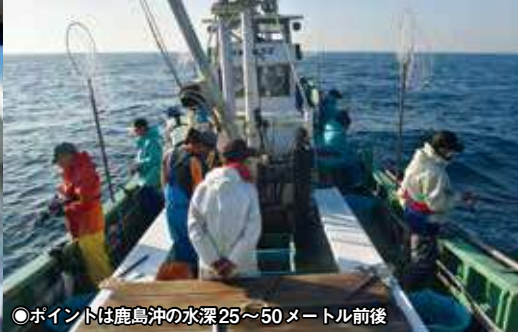


●時どき小型も釣れる



●シヨゴ (カンパチの若魚) もちよくよくヒットする

▲夜明け前から多くの人でにぎわう鹿島港



●ポイントは鹿島沖の水深25～50メートル前後



●鹿島沖でもマハタが定番ゲストになってきた



●沖揚がり直前に食ってきたイナダ



●根周りを攻めるとウツカリカサゴなど根魚もよく交じる



【巻頭特集】
冬に釣りたい
マハタと
ヒラメ

茨城県鹿島港出船 撮影◎本誌編集部

ゲスト豊富な鹿島沖のヒラメ 数、型ともに今シーズンは期待大

●鹿島沖のヒラメは今年も好調。取材日は最大6キロが上がった



▲この日のヒラメは1～2キロ級が多かった
▲エサのイワシは10センチ前後とやや小ぶりだった
▶大久丸のオリジナルヒラメ仕掛け
▼孫バリは背掛けがおすすめ



●良型のオキダバルも上がった



▲海面に魚が浮いたら竿を上げ落着いてタモへと誘導しよう



●小ぶりでも肉厚で食べ応えはある



●終盤は2.5キロ前後の型も目立つように



●着底直後に食ってることが多かった

オニカサゴが増えている!?

この日、ゲストで良型のオニカサゴが3尾上がったが、これまで鹿島沖で交じることがほとんどなかったと大川船長は話す。イセエビの職漁船でも小型のオニカサゴが高確率で掛かるようで、詳しい原因は分からないが確実にオニカサゴが増えているとのこと。オニカサゴの専門船が鹿島港から出る日も遠くないかもしれない。



●今年に入ってからオニカサゴがよく交じるようになったとのこと

11月の部分解禁以降、連日盛り上がりを見せている茨城県鹿島沖のヒラメ。鹿島港の大久丸を取材した11月中旬も鹿島沖の水深25～50メートル前後のツブ根周辺を探り、最大6キロ級を含み一人3～8枚となかなかの釣果に恵まれた。

さらにこの日はヒラメだけではなくゲストも豊富で、イナダやシヨゴ(カンパチの若魚)などの青物を始めマハタ、ウツカリカサゴ、オキメバル、オニカサゴなどの根魚も多く交じた。今後、水温が下がるにつれてヒラメの活性もより向上することが予想される。12月の全面解禁以降が大いに楽しみだ。(詳細は46ページ参照)

◎茨城県鹿島港・大久丸 大川 久明船長



●好ポイントを流すとすぐにアタリが出る。魚影は相当濃いようだ



●大久丸では1月半ばまでヒラメ釣りで出船予定